

主の祈りを読み解いてきました。今日で最後になります。「わたしたちを誘惑にあわせず、悪い者から救ってください。」という祈りが、最後に教えられています。

皆さんは、誘惑という言葉をお聴くと、どういうイメージをもたれるでしょうか。私は、甘い誘惑というイメージが強いのです。お金の誘惑、美女の誘惑・・・そういうものは、あまり自分には縁がないのですが、甘いケーキの誘惑にはしょちゅう負けております。誘惑というと、そういう具合にわたしたちを墮落へと誘う甘い罠というイメージがあると思います。ここで使われているギリシャ語は、ペイラスモスという言葉で、ほかのギリシャ文学ではほとんど用いられない聖書の専門用語であると言われます。そしてこの言葉は、新共同訳では「誘惑」と同時に「試練」とも訳されています。試練と訳していいのかも考えてみると難しいことですが、私たちの魂を動揺させるような災いや苦難のことをも、この言葉は含んでいるのです。例えば、ルカ 8:13、有名な種まきのたとえ、「石地のものとは、御言葉を聞くと喜んで受け入れるが、根がないので、しばらくは信じて、試練にあうと身を引いてしまう人たちのことである。」また、Iペトロ 4:12「愛する人たち、あなたがたを試みるために身に降りかかる火のような試練を、何か思いがけないことが生じたかのように、驚き怪しんではなりません。」

こんな具合に、ペイラスモスという言葉は、甘い誘惑であると同時に、厳しい試練でもあります。でも、それはなにも別々に考える必要もありません。いずれにしたってそれは、わたしたちを神から引き離そうとする悪魔の試みです。神を信じ、神の言葉にしたがってまっすぐに生きようとする者たちを、転げさせ、歪めさせ、外れさせようとする、悪魔の試みであり、激しい攻撃であります。

ハイデルベルクの 127 問に、今日の祈りの解説があります。「わたしたちは自分自身あまりに弱く、ほんのひととき立っていることさえできません。その上わたしたちの恐ろしい敵である、悪魔やこの世、また自分自身の肉が、絶え間なく攻撃をしかけてまいります。ですから、どうかあなたの聖霊の力によって、わたしたちを保ち、強めてくださり、わたしたちがそれらに激しく抵抗し、この霊の戦いに敗れることなく、ついには完全な勝利を収められるようにしてください。」こういう具合に、「霊の戦い」という視点を明確にして解説をしてくれています。

イエス様は、「わたしたちを誘惑にあわせず、悪い者から救ってください」と祈るように教えてくださいましたが、この悪い者というのが、「悪魔やこの世、また自分自身の肉」という風に解説されています。まことにわたしたちはいつも、この悪魔からの攻撃にさらされています。そして悪魔によってひきいられた、この世の様々な力によって、また同時に、その悪魔と響きあう自分自身の内なる罪人によって、いつも攻め立てられているのです。そういう戦いの最前線にいるという自覚をしっかりと持たないと、あっという間に飲み込まれます。

悪魔と言うのは、いつも必死になりながら、神様をバカにしてやろう、神を傷つけてやろうとねらっているものです。そのために、神を礼拝するものたちをねらってきます。神を礼拝し

ようとする者たちが、礼拝しなくなることを、それが神様を一番悲しませるということをよく知っているからです。悪魔は、わたしたちの信仰が偽者であるということを、必死で証明しようとしてきます。それはヨブ記の冒頭のくだりを見ても明らかです。人間の信仰なんて、しょせん上っ面だけのもので、だれも本当に神を一番になど考えていない、自分と自分の家族の繁栄のことしか考えていないのだと、悪魔は考えています。それを証明しようと試みてくるのです。今は毎日神様に感謝です、感謝ですとありがたがっている。でも、そんなのは偽者であって、ちょっと苦しみを与えてやれば、すぐに恨み言を言い出して神を呪いはじめるに決まっていると、悪魔はあの手この手を使って試みてくるのです。

そして、本当に情けないことに、私たちは実際、悪魔が思っていたとおりの失態をさらしてしまうものです。種まきのたとえでイエス様は、最初は喜んで御言葉を受け入れるけれど、根がはってないから、試練にあうとすぐにしおれてしまう人のことを話されましたが、そういう方はたくさんいます。自分は決してそんなことはないとは、誰にも言うことはできません。誰もが認める敬虔な信仰熱心な長老や牧師でさえ、襲い掛かる試練に動揺して、神を見失いそうになることもしばしばなのです。

あるいは、悪魔、サタンとは、神様に深い嫉妬を抱いているのだという人もいます。神と同じような尊敬を得たい、神のように礼拝されたいと願っているのです。そして、この世界のほとんどの人は、その術中にはまって悪魔を礼拝しています。まあ、悪魔を礼拝しているなどと言うと、ぎょっとされると思いますが、こうやって言い換えると分かりやすいでしょう。だれもが、快樂を求めている。より気持ちいいもの、より便利なもの、よりおいしいものを、欲望のおもむくままに求めている。そして、それを私たちに与えてくれる、力と金を拝んでいる。力と金がなければいけないと、心を支配されている。それは、形を変えた悪魔礼拝なのです。

悪魔は私たちにも、自分を礼拝するように要求します。力を求めなさい。金を求めなさい。愛だの希望だのと神は言っているかもしれないが、きれいごとでは生きていけない。日曜日に礼拝している時間があるなら、もっと合理的に用いることだってできるだろう。君のしていることは空しいだけだよ、神はあなたに、何も与えてなどくれない。神など見捨てて私についてきたほうがいい。そういう声に、ふらふらと無自覚のままに従っているクリスチャンも、山ほどいると思います。わたし自身もまた、時にそういう悪魔礼拝に陥っているのではないかと反省します。悪魔はそういう私たちを見て、大喜びしているのです。そして、神を嘲るのです。お前を礼拝していた者たちは、みんな私を礼拝するようになるのだ。人間はお前よりもわたしを必要とし、尊敬するのだ、と。

しかし、このような悪魔の試みに打ち勝たれた方がいらっしゃるのです。それがイエス様です。すでに読み解きましたマタイ 4:1 からの三つの試みの場面を思い出していただきたいと思います。イエスを神の道から引き摺り下ろそうとする悪魔との戦いが記されていた。その戦いにおいてイエス様は、神への徹底的な信頼を示されました。私たちの信じる聖書の神、イエス・キリストの父なる神だけに、ただひたすらに信頼する。イエス様は、その姿勢を貫くことで、

悪魔との戦いに勝利されていきます。

四十日の断食の極限状況にあって、神の子なら石がパンになるように命じたらどうだと悪魔が試みる。しかしイエス様は、人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きると言ってはねつけました。それは、パンなど必要ないと言った訳ではありません。でも、人が生きるのに必要なのはパンだけではない、むしろ、パンよりも大切なことがあると知っておられたから、イエスはパンを作り出すことを拒みました。では、为什么呢。パンよりも大切なこととは。それは、神です。イエスが私たちに教えてくださったことは、人間にはパンよりも神が大切だ。そして神の言葉が大切だということです。神の祝福がなければ、パンも、パンによって支えられる生命も、すべてはむなしなのです。まず神を求めよ。それがイエスが私たちに示してくださった信仰の道です。

この信仰の道を外れてはならない、それが、イエス様が体をはって教えてくださったことです。神を見失うとき、人間は必ず自分自身をも見失います。神から離れるなら、人間なんて簡単に絶望して、破滅の道にはまっています。正義や愛を見失って、悪魔以上にグロテスクな化け物に変わっていきます。それは、現代の狂った日本社会を見れば明らかでありましょう。まことの神との関係を失えば、人間は必ずおかしくなるのです。だから、悪魔はイエス様に対しても、神との関係を破壊させようとたくらんだのです。あなたには、今一番必要なのは、神ではなくパンではないか、パンを得るために力をふるいなさいと誘います。でもイエス様は決して譲らないのです。「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる。」もっともパンがほしい場面で、それ以上に大切なものがあることを示されたのです。

イエス様はそのようにして、私たちに戦いの模範を示してくださいました。私たちもまた、悪魔の試みに打ち勝つことが、イエス様から期待されています。でも、決して自力では戦うことはできません。ハイデルベルクにあったように、わたしたちはあまりに弱く、ほんの一時立っていることさえできないのです。だから、祈りなさいと、イエス様は教えてくださいました。「わたしたちを誘惑にあわせず、悪い者から救ってください」と祈りなさいと教えてくださいました。誘惑に「あわせないでください」とは、「連れ込まないでください、引き入れないでください」ということです。それは私の解釈によれば、私が悪魔の試みに引きずられていくことがないようにしてください。悪魔の試みに屈服させないでくださいという、積極的な祈りです。戦いに向かうための祈りです。試みに打ち勝たせてください、神を見失うことがないように、信仰を保ち続けることができるようにしてくださいと祈るのです。このような祈りに、主は必ず答えてくださいます。

一箇所、聖書をお開きください。I ペトロ 5:8 - 10 「身を慎んで目を覚ましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたける獅子のように、だれかを食いつくそうと探し回っています。信仰にしっかり踏みとどまって、悪魔に抵抗しなさい。あなたがたと信仰を同じくする兄弟たちも、この世で同じ苦しみにあっているのです。それはあなたがたも知っているとおりにです。」このように、ほえたける獅子のような悪魔の恐ろしさを自覚して、しっかり戦いなさい

いと促されています。そしてその後に、こういう確信の言葉が続くのです。「しかし、あらゆる恵みの源である神、すなわち、キリスト・イエスを通してあなたがたを永遠の栄光へと招いてくださった神ご自身が、しばらくの間苦しんだあなたがたを完全な者とし、強め、力づけ、揺らぐことがないようにしてください。力が世々限りなく神にありますように、アーメン。」あなたたちには、悪魔がほえたける獅子のように襲い掛かってくる、降りかかる火のような試練が必ず襲い掛かってくると、このペトロの手紙には繰り返されます。しかし、そのような試練にさらされている兄弟たちのことを本当に心配しながらも、ペトロには確信があるのです。神は、あなたたちを完全な者とし、強め、力づけ、揺らぐことがないようにしてください。どんなに大きな試練が与えられようと、神は、わたしの愛する兄弟姉妹を必ず守り導いてくださって、決して悪魔に屈服することなく、試みに打ち勝たせてくださる。かえって、その試練の炎によって磨き上げてくださって、必ず前よりも強くしなやかな、揺らぐことのない者へと成長させてくださる。そう信じているのです。私もいつもそのように信じています。皆さんも、そのように信じていただきたいのです。

確かに、私たちには悪魔からの激しい試みが与えられます。でもそれは、神の手の届かないところにあるものではありません。神が、悪魔に対してゆるしている分以上には、与えられることはありません。その意味で、悪魔の様々な試みは、どこまでも神の手の中にあります。だから「神は耐えられない試練にあわせられることはない」とも言われるのです。I コリント 10:13「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで、神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練にあわせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」皆さんの中には、このような言葉を聞いて深く慰めを覚える方もいらっしゃるでしょう。でも本当にそうだろうか、すなおには聞けない方もいらっしゃるでしょう。そのような方は、本当におつらい経験をされたことでしょうか、あるいはそういう人を知っているのだと思います。私もこれまでに何人か、耐えられないような試練にあわれた方々と共に祈って時間を過ごしてきましたので、そのように思う気持ちも少しは想像できます。しかし、それでも私は、神が逃れる道を備えていてくださるといえるのは本当だと思います。それは経験において証しできることでもあります。

ただし、逃れの道とは、神様と向き合わないままに、また自分としっかり向き合わないままにたどりつけるような、安易な裏道ではないということは覚えねばなりません。逃れる道とは、逃げ道ではないのです。迂回路ではないのです。そうではなく、神へとまっすぐに近づく道なのです。悪魔の試みとしっかり戦わねばなりません。神と向き合い、自分と向き合わねばなりません。そうして私たちが自分の試練と体当たりでぶつかるならば、あらゆる試練を味わわれた方であるイエス様が、かたわらで必ず支えてくださいます。必ず打ち勝たせてくださいます。そして、その試練を通して、私たちを強くしなやかに練り上げてくださいます。

そんな確信に支えられながら、そして試みと戦う覚悟を持って、主よ、打ち勝たせてくださいますと共に祈りを合わせましょう。

お祈りします。

主よ、わたしたちは自分自身あまりに弱く、ほんのひととき立っていることさえできません。その上わたしたちの恐ろしい敵である、悪魔やこの世、また自分自身の肉が、絶え間なく攻撃をしかけてまいります。ですから、どうかあなたの聖霊の力によって、わたしたちを保ち、強めてくださり、わたしたちがそれらに激しく抵抗し、この霊の戦いに敗れることなく、ついには完全な勝利を収められるようにしてください。